

人と人をむすぶ、
人と世界をむすぶ

SIA

しーあ
VOL.130

滋賀県国際交流・協力情報誌



公益財団法人 滋賀県国際協会
Shiga Intercultural Association for Globalization

〒520-0801 滋賀県大津市におの浜1丁目1-20 ビアザ淡海2階
TEL:077-526-0931 FAX:077-510-0601
E-mail: info@s-i-a.or.jp URL: https://www.s-i-a.or.jp

Contents

① 特集

改めて「多文化共生」を問い直す

④ SIA NEWS

- 2025年度びわこ奨学生が決定しました
- 滋賀県におけるウクライナ支援について〈報告〉
ウクライナ支援活動の紹介と
避難民への支援についてのお礼
- 大阪・関西万博「滋賀魅力体験ウィーク」に
県国際課がブース出展しました

⑤ 今、この人にInterview

機械設計士
ファン ドウック ロックさん

⑥ おしえて世界のこと

誌面万博開催！
私はこの国の〇〇をアピールしたい！

⑦ SIAメンバーズ

みなさんは「滋賀県多文化共生推進プラン」を知っていますか？

このプランには、国籍や文化などのちがいにいかかわらず、誰もが地域の一員として共に暮らしていくためにどのように取り組んでいくかの考え方や方向性が示されています。今年4月、このプランの改定版が新たに策定されました。

今回は、このプランの検討懇話会で座長を務められた森雄二郎さんに、策定の経緯や今後の展望についてご寄稿いただきました。

特集

改めて「多文化共生」を問い直す —滋賀県多文化共生推進プランを 検討するにあたって大事にしたこと—

滋賀県多文化共生推進プラン検討懇話会 座長
京都文教大学 教育・社会連携コーディネーター 森 雄二郎

今回、滋賀県多文化共生推進プラン(第3次改定版)検討懇話会に参画した立場から、外国人住民の現況や多文化共生をめぐる様々な議論を踏まえて、新たな推進プランに込めたメッセージや思い、今後の展望について綴ってみたいと思います。

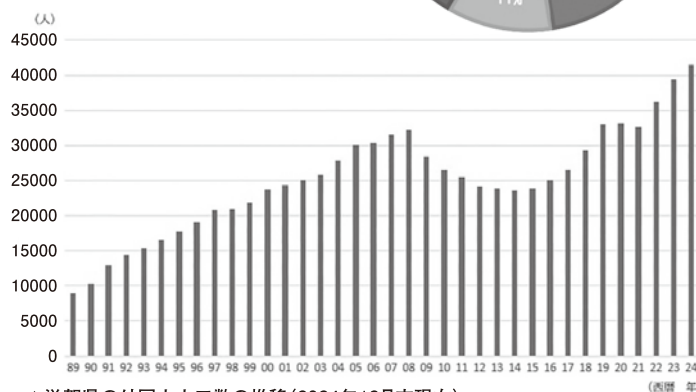
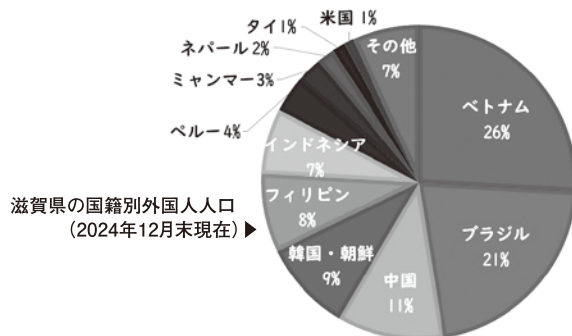
外国人住民の現況(令和6年(2024年)12月末現在)

〈日本全国の状況〉

- 日本で暮らす外国人の数は370万人を超えて過去最多を更新。
- 国籍・地域別では、中国、ベトナム、韓国の順だが、増加率では、ベトナム、ネパール、インドネシア、ミャンマーなどの東南アジア諸国からの流入が顕著。
- 在留資格別では、「永住者」が最も多いが、「技能実習」「技術・人文知識・国際業務」「特定技能」などの就労目的とする入国者が増加。

〈滋賀県の状況〉

- 県内の外国人人口は41,475人(県民の約34人に1人)で過去最多を更新。
- 国籍・地域別では、ベトナム、ブラジル、中国の順で東南アジア諸国からの流入が増加。



▲滋賀県の外国人人口数の推移(2024年12月末現在)

※グラフは滋賀県国際課の調査をもとに当協会にて作成

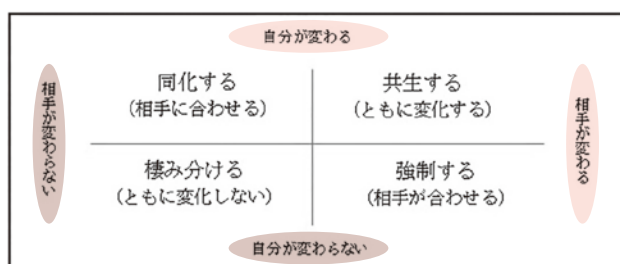
こうした近年の動きには様々な要因が絡んでいますが、何よりも少子高齢化が進行する日本社会にとって、社会を支える担い手として外国人材のニーズは今後ますます増えていくことが予想されます。実際に2019年に導入された「特定技能制度」では、より長く日本で働いてもらうために、在留期間の更新に上限を設けず、要件を満たせば家族も一緒に暮らすことが認められる(特定技能2号のみ)ようになるなど、単なる労働人材としてではなく、地域に根差す生活者がますます増加することが見込まれています。つまり、どうやって多様な文化背景を持つ人々とともに社会を作っていくのか、まさに「多文化共生」ということが社会全体としても、また私たち一人ひとりの日常生活の中でも大きな課題になっていると言えます。

改めて「共生」とは何かを考える

「多文化共生」とは、「認め合う」「対等」といったある種理想的な社会のあり方や関係性を示す言葉として、政策スローガンあるいは社会的規範として使用されてきました。しかし、その耳障りのよい響きとは裏腹に、まだまだ外国人にとって言葉や制度、文化の違いによってさまざまな困難が存在します。また、ヘイトスピーチや外国人嫌悪といった問題も顕在化しています。

そこで、改めて「共生」とは何かを考えてみましょう。「共生」がお互いに持続的に良好な関係を築いていくことを含んでいるとすれば、それは一方的にルールを押しつけたり(強制)、お互いに変化しないこと(棲み分け)ではなく、ともに変わりあう関係性を築くプロセスなのだと思います。つまりは外国人がホスト社会に合わせるだけでなく、ホスト(私たち)側も彼らの存在を通じて自己変容していく必要があるのではないかとということです。

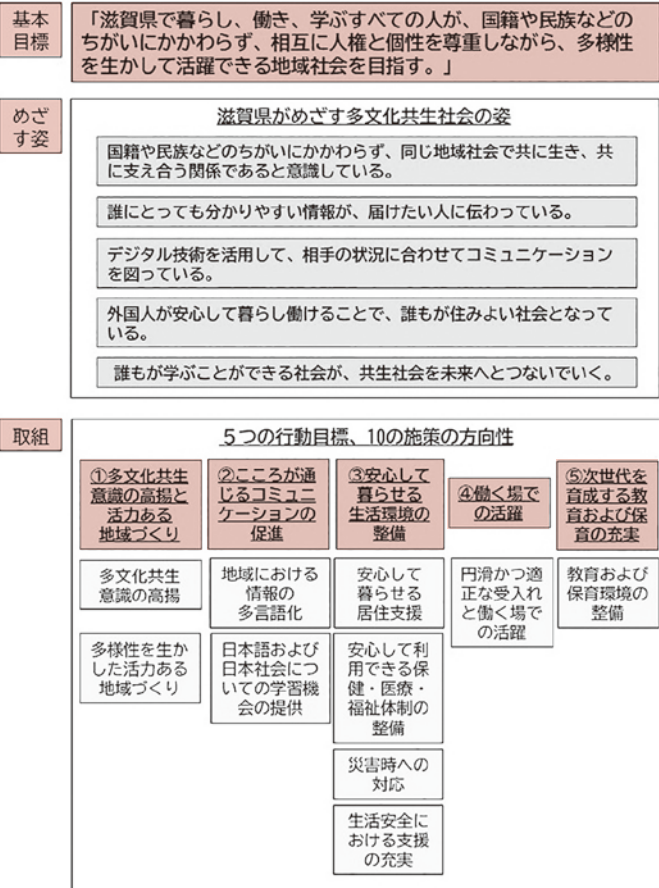
ここで、私がお伝えしたいのは「日本社会は外国人にやさしくない」「もっと外国人に合わせましょう」といったことではありません。しかし、私たちが持つマジョリティとしての



「特権性」に目を向けず、対等や平等という言葉を発することは意図せず相手を傷つけてしまうことがあります。多文化共生を実現するためには、お互いの軋轢や葛藤を乗り越えて、自分自身もまた社会の当事者であることを自覚することがもっとも重要な出発点なのではないかと考えます。

滋賀県多文化共生推進プランに込めた思い

プランの検討懇話会は、学識者や自治体、企業、国際交流・多文化共生の関係者、外国人住民など14人で構成されました。最初に議論となったことは、まさに本プランを推進する「当事者とは誰か」ということです。先に述べたように、「多文化共生」にかかわる諸問題の主体は、外国人たちだけでなく、社会全体、つまりは「私たち」自身です。その当事者性(当事者意識)をすべての県民にどう喚起できるのかが大きな課題であることが浮き彫りになってきました。そこで、プランに使用される文言や表現のいくつかを見直すことにしました。まずは、冒頭(第1章)に、プランの位置づけ



▲滋賀県多文化共生推進プラン(第3次改定版)の推進イメージ
※滋賀県国際課作成

とともに「対象者」という項を設け、そこには『多文化共生社会の実現は、国籍や民族などのちがいににかかわらず、共に生きていく地域社会の一員として皆で取り組んでいくことであるため、本プランは**すべての県民**を対象としています。』と明記しました。

また、懇話会において、様々な意見が寄せられたのは「支援」という言葉についてでした。もちろん、日本に暮らす外国人住民は様々な面でサポートを必要としています。しかし、「支援」という言葉は“支援をする側”と“支援をされる側”というそれぞれの立場を固定化させてしまう可能性があります。新プランでは、「コミュニケーションの支援」を「コミュニケーションの促進」に変更するなど、相互作用性を意識した表現に置き換えることで、外国人だけではなく、日本人や社会全体が当事者であるという意識の醸成につながる表現にすることを目指しました。

次に、具体的な行動目標の第一に「多文化共生意識の高揚」を掲げました。県民一人ひとりが国籍や民族などにかかわらず、同じ地域社会で共に生き、共に支えあう関係という意識を持つことが重要であるということを明確にしています。そして、「多文化共生の考えを自然に身につけるためには、幼少期からの取組が必要」という委員の意見を受け、具体的に『幼少期から多文化共生意識を育む取組』が新たな項目として追加されています。さらに、行政職員の意識の向上も重要だとの意見から「滋賀県多文化共生推進本部の設置」が盛り込まれています。

滋賀県多文化共生推進プラン(第3次改定版)について詳しくはこちら

<https://www.pref.shiga.lg.jp/ippan/kurashi/kokusai/10889.html>



今後に向けた課題や展望について

さて、ここでは推進プランをより実効性のあるものにするために、今後の課題や展望についても少し触れておきます。まずは、推進プランおよび多文化共生に関する取組の広報・PRについては、まだまだ不足しているという点です。そもそもこのプランのことをどれほどの県民が認識しているのでしょうか。例えば、滋賀県の多文化共生をイメージできるスローガンやロゴマークを作成するとか、あるいはプランそのものをイラストやアニメーションなどを使った漫画や動

画にするなど、“魅せる”広報を推進する必要があるのではないのでしょうか。

次に、滋賀県における「多文化共生施策」をより明確にするため、他府県でも例があるように、プラン(=行動計画)ではなく、上位の規定(条例など)を定めることも考えられると思います。ここでは、ヘイトスピーチの解消や障害者などを含むインクルーシブ社会の実現に向けた包括的な形に発展させることもできるかもしれません。

最後に、外国人県民の権利や義務についてです。ここでは、単に権利を「認める、認めない」という狭義の議論ではなく、これからの滋賀県のあり方、将来的なビジョンにおける外国人県民の位置づけを明確にするためにも、建設的かつフラットな議論を続けていく必要があると考えます。

結びにかえて

ここまで様々な課題を書き連ねてきましたが、実際に滋賀県の中には、「共生の実践」が着実に広がっています。例えば、県内の各地域では、外国人住民と地域住民がともに防災訓練に参加するなど、言語や文化の壁を越えて「命を守る」取組が進められています。また、地域と学校をつなぎながら、外国につながる子どもたちを支える学習支援の活動も継続的に行われています。彦根市では「やさしい日本語」を使った情報発信が定着し、行政文書だけでなくイベント案内や生活情報においても、だれにとっても「伝わる表現」が追求されています。こうした取組は、外国人のためだけに行われているのではなく、結果として高齢者や子ども、障害のある方々にとっても「やさしいまちづくり」につながっています。

そして、滋賀県多文化共生推進プランが、このような草の根の活動を下支えし、人々や社会の関係性やあり方を新しく創り出す対話の場として機能し続けることを願っています。

執筆者プロフィール

森 雄二郎さん

東近江市在住。京都文教大学 社会連携部 教育・社会連携コーディネーター(現職)

滋賀県内の自治体や教育機関などで多文化共生に関する講演や講座の講師を務める。2021年より公益財団法人滋賀県国際協会 理事。

News

2025年度びわこ奨学生が決定しました！

授与式開催日 2025年6月24日(火) 会場 ピアザ淡海(大津市)

今年度「外国人留学生びわこ奨学金」奨学生10名を決定し、奨学金授与式を開催しました。この奨学金は、県内大学等に在籍し、学業や地域活動に励む留学生に対して支給するものです。奨学生からは「生薬の研究を進め、人々の健康に貢献できる研究者になりたい」「誰もが好きなファッションを楽しめる社会を作ることを目標に、奨学金をこれからの研究に十分活用したい」といった抱負が述べられました。

奨学生は勉学だけでなく「びわこ奨学生ボランティア」として国際交流や多文化共生の活動に参画します。奨学生にイベント等への協力を希望される方は、当協会事務局までお問い合わせください。



報告

滋賀県におけるウクライナ支援について

～ウクライナ支援活動の紹介と避難民への支援についてのお礼～

4月上旬、ウクライナの戦地で暮らす子どもたちに、手作りの人形を届ける活動を2023年から続けておられる人形作家・藤後俊子さんを訪ねました。活動名は「さくらちゃんプロジェクト」。これまでにウクライナへ送られた人形の数、なんと500体近くにのぼります。

作業場では、メンバーの皆さんが一つひとつ丁寧に人形を作る様子が見られ、そのすぐそばには、ウクライナの子どもたちから届いたお礼の手紙や、人形を抱きしめる写真が並んでいました。この写真を通して、人形が子どもたちの寂しさを和らげ、心を支える存在になっていることを実感しました。

また先日、県内の果樹園の方から、ウクライナの料理でよく使われるピーツを寄贈したいとの申し出があり、避難されている方々にお渡ししました。母国の味で少しでも元気づけたいという生産者の温かな思いが、受け取った方々にしっかり届いていました。ありがとうございました。

当協会では今後も、滋賀県に避難されたウクライナ避難民の方々への支援を続けてまいります。募金など詳しくはHPをご覧ください。



<https://www.s-i-a.or.jp/news/757>



▲ウクライナ郷土野菜
ピーツ

「さくらちゃんプロジェクト」の詳細は、こちら

<https://readyfor.jp/projects/sakurachan-proj>
(*クラウドファンディングは終了)



しがウクライナ避難民応援支援金

(2025年6月30日現在)

[募金総額] 16,871,208円

[支援実績] 15,826,940円

大阪・関西万博

「滋賀魅力体験ウィーク～Discover Shiga, Go Lake Biwa～」に 県国際課がブース出展しました！

大阪・関西万博会場の関西パビリオン多目的エリアでは、6月24日(火)～29日(日)と8月27日(水)～9月1日(月)の各6日間、滋賀の自然・文化・歴史・産業等の魅力を発信するイベントが開催されており、6月26日(木)・27日(金)には、滋賀県国際課がブース出展を行いました。当協会も当日の運営に協力し、ブースでは滋賀県の友好州省の紹介パネルの展示や、友好州省にある湖の形に関するクイズを実施。クイズ参加者には記念ポーチやステッカーのプレゼントもあり、1日1,000人を超える方がブースを訪れ大盛況でした。来場者からは「滋賀に住んでいるけれど友好州省のことは知らなかった」「帰ったら友好州省のことについて詳しく調べてみようと思う」という声が聞かれ、多くの方に滋賀県と世界とのつながりを知ってもらったきっかけになりました。



ファン ドウ ック ロック さん

第二のふるさとになった甲賀市で、サッカーや伝統文化の交流イベントを通して、子どもが笑顔になって家族が幸せになれるコミュニティを作っていきたいですね。



■ロックさんは2008年来日されたのですが、きっかけは何だったのでしょうか？

大学で機械設計を学んでいたことから、卒業後すぐにベトナムで日系の生産ライン設備事業の会社に就職しました。仕事をしているうちに日本語に興味を持ち、実際に日本に来て仕事をしたいと思い始めました。社内の日本語講座で8ヶ月間勉強し、日本語検定3級を取得して2ヶ月で日本の図面の引き方を習得。2008年来日し、石川県の会社に機械設計士として就職しました。

ところが、2009年の不景気（リーマンショックの影響による世界的な経済危機）で私たち外国人は職を失いました。そこで仕事を探して、富山県にあるエレベーターの製造会社に就職しました。その後、2011年に現在勤めている甲賀市の医療機器製造会社に転職しました。

■ご家族も一緒に日本に来られていたのですか？

日本に来てから結婚しましたが、妻が出産のためにベトナムに帰国したため、その後は単身で日本にいました。ただ、子どもの顔を見たかったこともあり、富山の会社の提携会社がベトナムにあったので、途中からはベトナムに帰国して仕事をしていました。その後、甲賀市の会社への転職のタイミングで、妻と子どもたちと一緒に日本で暮らすことになりました。

■ベトナムにいた頃の日本のイメージと実際とで違いはありましたか？

ベトナムにいた頃は、日本は都会的で賑やかな国だとイメージしていましたが、自身が勤める会社は大きな敷地が必要な製造系の会社で地方にあったため、東京や大阪のイメージと異なり、どこも人が少なく驚きました。

ただ、人のマナーの良さはベトナムにいた頃感じていたとおりでした。赤信号で停車していると、青信号で渡る子どもたちがおじぎをして渡ってくれたことに感動しましたね。家族で日本にいるのは、日本が安心安全で住みやすい国だからです。

■2011年にご家族も一緒に日本にいられて14年経ちますが、日本の暮らしはいかがですか？

小学生と中学生の2人の子どもたちは

日本の学校に通っていることもあって、日本語は私より上手で、日本の暮らしに不便を感じている様子はありませんが、妻は日本語が難しいようです。家では、子どもたちが母国語を忘れないようにベトナム語で話しています。暮らしの中で難しいのはゴミ出しですね。私の周りでも日本語がわからずゴミ出しに苦労しているベトナム人が多いです。

■ロックさんは5年前からベトナム人のサッカーチームを作って県内で大会を開催されていますが、そのきっかけは何だったのですか？

私が甲賀に来た14年前に比べて、ベトナム人の技能実習生の人数もかなり多くなりました。そうしたことからベトナム人のコミュニティを作る必要があると思いました。学生の頃からサッカーを楽しんでいたため、チーム作りのために募集すると、応援してくれる人を含めて30人ほど集まりました。ベトナム人のチームは甲賀だけでなく、県内には彦根、長浜、近江八幡、東近江、草津にもあり全部で12チームもあります。そうしたことから2022年と2024年には県内のベトナム人のサッカー大会を企画しました。3回目の大会を今年か来年には開催したいと思っています。

■他にも子どもたちが集える場づくりもされているのですか？

そうですね、子どもたちも両親が働いていると家に引きこもりがちになるので、ベトナムの伝統衣装のアオザイを着る集いや、中秋の名月を祝う祭り、家族みんなで楽しめるようなクリスマス会などを毎年開き、子どもたちの笑顔で家族みんなが幸せになれるようなイベントを開催しています。また、2年前に妻が水口町にベトナム食材店をオープンしたので、そこもベトナム人の交流の場になっていますし、日本人も買いに来られるので、今後は多文化交流の場所になっていくといいなと思っています。

■最後にロックさんが思う国際交流のあり方や、夢・今後の目標を教えてください。

まずは言葉がわかることが、国際交流をするには大切です。言葉が理解できないと日本人とも交わることができないので、

▲土曜日はサッカーをしている小学生のお子さんを練習場に送った後、自身のチームの練習に行くといった忙しい休日を過ごしているとのこと。

● プロフィール ●

ファン ドウ ック ロック さん／
ベトナムドンナイ出身 甲賀市在住
機械設計士

大学卒業後に日系企業で1年勤め、2008年来日。石川県、富山県、滋賀県で機械設計の仕事に携わる。2011年に甲賀市に転居してからは、サッカーを通じて地元のベトナム人コミュニティ同士の交流を深めている。また、母国の伝統文化を伝えるイベントを開催するほか、甲賀市の国際交流イベントにも積極的に参加。休みの日にはベトナム食材店を営むパートナーを手伝うなど、同じ母国の人たちにとっても住み良い地域をつくろうと奔走している。



▲ロックさんのサッカーチーム「Que(クウェ) Shiga FC」。「Que」はベトナム語で「ふるさと」という意味。



▶パートナーが営むベトナム食材の店「ふるさと」。ロックさんも時間がある時は手伝いに入る。



昼間だけでなく、土日の勤務や夜勤がある人たちも参加できるような日本語講座の場が欲しいと思っています。そこでゴミ出しの方法も詳しく教えていただけたらいいですね。単身暮らしで、地域の人と上手く交流できずにいる人には、特に大事なことです。

私がこれからしたいことは、ベトナム人が集えるいろんな遊び場、レストランやカラオケを備えた交流スペースを作ることです。また、将来の一番大きな夢はサッカーグラウンドを作ることですね。この第二のふるさとになった甲賀市で、サッカーや伝統文化を通じた交流を盛り上げていきたいです。

おしえて世界のこと

テーマ

誌面万博開催！
私はこの国の〇〇を
アピールしたい！

大阪・関西万博が4月にスタートし、今年は特に世界各地の文化に触れる機会が増え、世界への関心が高まっているように感じます。

そこで今回は「誌面万博」と題し、この誌面上でSIA版の万博を開催！世界中の様々な国から、その国でアピールしたいことを教えてもらいました。

■アメリカ

中嶋 景子さん

(滋賀県ミシガン州経済交流駐在員)

大人が思いっきり遊ぶ国。平日の仕事終わりに、大人同士で公園でピクニックやスポーツをしたり、ハロウィンなどのイベントでは子どもに負けないくらい羽目を外して遊んだり、夜中まで仲のいい友人とボードゲームに熱中したりする姿がよく見られます。ガーデニング、陶芸、アートなど熱中できる趣味を持っている人も多く、仕事以外の時間を、家族はもちろん、自分のために費やしているのがうらやましく、この国の豊かさを感じます。

■ウガンダ

古市 知さん (JICA海外協力隊員)

「アフリカの大自然」と聞くと、ライオンやゾウが暮らすサバンナの風景を思い浮かべる方が多いのではないのでしょうか。しかし、東アフリカに位置するウガンダには、チンパンジーが棲む広大な熱帯雨林があります。「進化の隣人」とも呼ばれるチンパンジーは、進化的に私たち人間に最も近縁な生き物で、ゲノム情報の99%を共有しています。森に入って彼らの姿を観察していると、人間のルーツに思いを巡らすずにはいられません。恵まれた気候が育んだ大自然とそこに生息する野生動物たちがウガンダの一番の魅力です。

■ウガンダ

森 稜真さん (JICA海外協力隊員)

ウガンダではサッカーが爆発的な人気を誇っていますが、それに次ぐほどエアロビクダンス(運動×音楽)も広く親しまれています。何といっても、子どもから大人までダンスが非常に上手で、イベントのたびに踊る姿が見られます。

マラソン大会に参加した際には、準備体操がエアロビクダンスで、走る前も走った後もエアロビクダンスが行われ、その熱気に圧倒されました。(朝6時半からエアロビ！)

■フィジー

栗津 佐和子さん (JICA海外協力隊員)

フィジーでは持つ者がシェアする「ケレケレ」という習慣があります。例えば、私の職場のランチでは皆の持ってきたものをテーブルの真ん中にどんと置き、それぞれが食べたいものをお皿に取って食べます。たまにランチを持ってきていない人もいますが、そういう人もみんなの持ってきたランチを食べます。「あのランチ持ってきていないのに…」なんて言う人は一人もいません。フィジーの全ての職場がそうではないと思いますが、皆が毎日仲良くシェアして食べている光景は微笑ましく、とても誇れる習慣だと思います！

■キルギス

伊吹 隆聖さん (JICA海外協力隊員)

国土の9割が山岳地帯というこの国では、春になると遊牧が始まり、馬と共に暮らす人々の姿が見られます。私の住むナリン州で遊牧民に乘馬を教わった際、「馬は臆病な動物だ。乗り手の気持ちが伝わる」と教えられました。自然と共に暮らし、動物を慈しむ彼らにとっても感銘を受けます。伝統帽カルパックを被り、馬にまたがる経験は、キルギス文化への理解を深める貴重な機会となりました。



■ベリーズ

杉中 綾子さん (JICA海外協力隊員)



子どもたちの高い言語力はアピールポイントであり、私の語学習得へのモチベーションにも繋がっています。多様な民族が暮らすベリーズでは、公用語として学校の授業で使う英語に加え、家族と話すスペイン語や中国語、友人と話す時のクレオール語など、小学生にして3言語以上を自在に操ることが当たり前です。アメリカや台湾への留学を目指す学生も多く、人口40万人の小国だからこそ世界をフィールドに活躍しようというバイタリティを感じます。

■中国

西村 文彦さん

(滋賀県誘客経済促進センター〈湖南省〉所長)

中国からご紹介したいのが「簡牘(かんどく)」です。これは、紙が発明される以前に用いられていた木や竹の書写用の道具であり、湖南省では数万点の簡牘が発見されています。当時の政治、経済、そして人々の暮らしを現代に伝える、まさに「歴史のタイムカプセル」のような存在です。大阪・関西万博の中国館も、この簡牘をモチーフにしたデザインが採用されています。なお、8月6日から8日には「湖南ウィーク」が、この中国館で開催され、湖南省の文化や魅力を体感できます。ぜひお越しください！



■ベトナム

長尾 綾菜さん (JICA海外協力隊員)

ベトナムは親切な人が多い！何か迷っていると声をかけてくれて説明してくれます。ベトナム語が少しでも話せたらベトナム人にぜひ声をかけてください。理解できない会話は翻訳機能を使って説明もしてくれます。何歳？この国の人？結婚はしてる？が日常的な会話です。出会った後すぐに聞かれます。

■ブラジル

ジエゴ デ ソウザさん (滋賀県国際交流員)

友達や家族とみんなで食事をするのはおそらく世界中で楽しまれている習慣のひとつです。ブラジルの場合、一番人気といえば、なんといってもシュラスコ(ブラジルのバーベキュー)でしょう。ご飯やサラダも少しは食べますが、みんなでできるだけたくさんのお肉を食べたい気持ちで集まるのが一般的です(とはいえ、最近はベジタリアン対応のシュラスコも増えてきています)。焼きたてのお肉を満腹になるまで食べながら、お酒やソーダを飲んだり、世間話をするのが最高に幸せな時間です！

■ボリビア

中庭 藍さん (JICA海外協力隊員)

ボリビアを語る上で外せないもののひとつが「踊り」です！ユネスコの無形文化遺産にも登録されている「オルロのカーニバル」という、「リオのカーニバル」や「クスコのインティライミ」に並ぶ南米3大カーニバルの一つが開催される踊りを愛する国なのです。各地で行われるカーニバルも盛んで、学校行事としてもその参加は一大イベントです。私の所属する学校も連日、教職員・児童生徒・保護者で雨空の下、びしょ濡れになりながら練習し、当日は夜中までカーニバルを楽しみました。それほどみんな踊りが大好きな国です。



■ボリビア

吉川 佑亮さん (JICA海外協力隊員)

コンピュータ技術隊員という仕事柄、ITの側面からアピールします。それは「銀行アプリの二次元コード決済」です。日本にも二次元コード決済は存在しますが、ボリビアのそれは一味違いました。まず各銀行の口座管理アプリから直接コード決済ができるため口座登録が不要。他銀行間との互換性もあり、アプリで二次元コードを生成できるため、手軽に個人間送金が可能。口座から直接引き落としなので入金の手間もありません。

■カンボジア

中村 幸さん (JICA海外協力隊員)

いつでも美味しい果物が安く手に入ります。カンボジアにも旬の果物があり、たとえ2つの季節(雨季と乾季)でも日本と同じように季節を感じることができます。ドリアンが並び始めると雨季の始まりだな〜とか、完熟マンゴーが並び始めると一番暑い季節になっているなど。知らない果物を



見て「これ何?」と聞くと試食もさせてくれる優しいカンボジア人。日本にはない美味しい果物がいっぱい食べられます。

■マーシャル諸島

吉田 夏喜さん (JICA海外協力隊員)

マーシャル諸島は、日本の統治時代から残る日本語がそのままマーシャル語として使われているなど、日本ととても関わりが深い国です。また、核実験が行われた環礁があり、日本と同じ被爆国です。とても小さな国なので、現在も気候変動による多くの問題に直面していますが、様々な困難を乗り越えて生きるマーシャルの人々からは生き抜く力の強さを感じます。

今回の万博でも、マーシャル諸島の歴史や核実験、現在抱える問題などについて展示をしています。ぜひパビリオンで、深い歴史や人々のレジリエンスを感じてください!

■ラオス

和泉 優さん (JICA海外協力隊員)

私が紹介するのは、ラオスの伝統儀式「パーシー」です。人の幸せや健康を願うこの儀式は、誕生日や結婚、出発や歓迎など、人生の節目に行われます。祈りの言葉とともに、白い糸を手首に結び、「元気でいてね」「守られますように」など相手を大切に思う気持ちが込められています。パーシーは、ラオス人の温かい心と、人との繋がりを大切にする文化の象徴です。



SIA メンバーズ

Members of Shiga Intercultural Association for Globalization

SIAメンバーズ各店より滋賀県国際協会会員の皆さまに会員相互の交流を目指して会員特典を提供いただいております。特典利用の際は会員証を提示してください。

2025 SUMMER

お店コーナー

神原税理士事務所

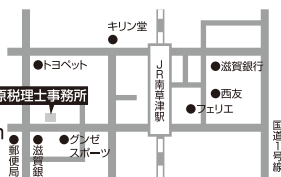
日々の帳簿処理、会計や税金について、できるかぎり、お客様の立場でわかりやすくサポートします。とくに海外勤務や英文経理の経験がある税理士が、日本語が苦手な外国人事業者の確定申告や中小外資法人の会計税務にも対応します。



会員特典 相談料無料(何でも気軽に相談ください)

住所: 草津市南草津2丁目3-9
コミュニティ南草津ビル3F-B
(南草津駅西口より徒歩5分)
電話: 077-599-3480
(電話受付可)

URL: <http://www.kambara-office.com>
営業時間: 9:00~17:00
定休日: 土・日・祝



Siam Erawan

サームエラワン



「微笑みの国・タイ王国」を紹介するサームエラワンは、シェフのノイさんが作る本物のタイ料理(当店はタイ政府よりタイ・セレクト・シングルネチャーの認証を得ています)のご提供や、タイ料理教室(出張可)など各種イベントを開催しています。ランチ・ディナーは夏期のみ営業です。公式ホームページから営業日やイベント内容をご確認いただけますのでご覧ください。(LINE・Facebook・Instagramあります)



会員特典 各種教室料金・飲食代(テイクアウトは除く)5%OFF

住所: 東近江市八日市町11-16
営業時間: ランチ11:30~ 定休日: 日・月曜日
電話: 0748-22-0422 携帯: 090-1131-9344
URL: <https://www.siamerawan2558.com>



西洋料理 ロジェ・ソバージュ

ロジェ・ソバージュの思い

フォアグラ・キャビア・トリュフ=フレンチって一体誰が決めたの? フランス人だってそんな高価なもの、めったに食べていませんよ。フレンチって何? それはフランス人が日頃食べているような料理。日本料理も同じ。日本人が日頃食べているような和食。そんなロジェ・ソバージュのリーズナブルなフルコース料理。税込1,650円。

きっと満足していただけると思います。ご予約をお待ちしております。



会員特典 グラスワイン or ソフトドリンク or ノンアルコールビールのいずれか、お一人様一杯サービス

他のサービスとの併用はできません。

住所: 近江八幡市堀上町99-12
電話: 0748-36-8123
営業時間: ランチ 11:00~14:00
ディナー 17:00~21:00
定休日: 不定休



ミシガン州立大学連合日本センター

〈2025 英語プログラム受講生募集〉

[開講期間] 2025年4月1日(火)~2026年3月18日(水)
全40回(各期10回)

[教室] ミシガン州立大学連合日本センター(彦根市松原町1435-86)
近江八幡教室(近江八幡市鷹飼町454-4 Nビル)

[クラス]

- 一般コース: 初級から上級まで5コース(1クラス60分・高校生以上対象)
- EBC: バイリンガル小中学生クラス

会員特典 受講料5%OFF(ご本人のみ)

※他割引と併用不可
※お申し込み時にSIA会員であることをお申し出ください。

〈こども英語教室2025も募集中〉
2025年4月1日(火)~2026年3月18日(水)

住所: 彦根市松原町1435-86
電話: 0749-26-3400 FAX: 0749-24-9356
URL: <https://www.jcmu.net>
E-mail: sifah@mx.bw.dream.jp



SIAメンバーズ

ドイツレストラン ヴュルツブルク

German Restaurant
WURZBURG



夏の人気メニュー「スペアリブ」が今年も登場！毎年コレを食べにご来店くださるお客様もいらっしゃいます。ビールとの相性も抜群！ぜひ一度ご賞味くださいませ。

会員特典 現金でのお支払いで会計10%OFF
クレジットカードでのお支払いで会計5%OFF
※その他割引との併用不可

※ご本人含む6名様まで
※会員証のご提示をお願い致します。

住所：大津市由美浜5番地
電話：077-526-3500 FAX：077-526-3539
E-mail：wurzburg@mx.bw.dream.jp
URL：https://www.wurzburg.jp
営業時間：
ランチ 11:00～15:30(ラストオーダー 14:30)
ディナー 17:00～21:00(ラストオーダー 20:00)
定休日：不定休



地球雑貨アース・ヴィレッジ

東南アジアを中心に店主自らが現地へ赴いて仕入れた品々が所狭しと並び民族雑貨店。その土地ならではの自然素材の特徴を活かした手作りの雑貨や伝統的な民族楽器など、味わい深い品物を手に取って、地球に息吹く様々な文化や人々の営みを感じてください。



◀ジャンベ・ディジュリドゥの取り扱い
は国内最大級！初めての方には演奏方法などレクチャーいたします。

会員特典 SIA会員証提示で全商品5%OFF

住所：〒521-1311 近江八幡市安土町下豊浦5096-31
TEL：0748-46-2007

URL：https://www.gaia-link.com/

営業時間：9:00～18:30

定休日：毎週日曜日

※ホームページ内でも
商品の購入が可能です。



トラベルコーナー

会員証を提示いただきますと、割引特典がご利用いただけます。
お申込・お問い合わせの際には滋賀県国際協会の会員であることをお申し出ください。

琵琶湖汽船 ミシガンクルーズ



びわ湖の南湖を周遊する、赤いパドルが目印の外輪船。湖国大津の玄関口・大津港の他、事前予約制でのお浜観光港や柳が崎湖畔公園港にも寄港するので、三井寺や石山寺、比叡山などの観光と組み合わせると手軽にびわ湖遊覧を楽しんでいただけます。船内では360度に広がる景色をデッキから望める他、観光案内やショータイムもミシガンならではのお楽しみとして充実したクルージングをお過ごしいただけます。



会員特典 ミシガンクルーズ乗船料
10%引(本人含む5名様迄) ※企画商品などは除く・他割引併用不可

※ピアノカまたは、他の船舶が運航する場合がございます。運航ダイヤなど、詳しくはお問い合わせください。

住所：大津市浜大津5丁目1-1
電話：077-524-5000 FAX：077-524-7896
URL：https://www.biwakokisen.co.jp
営業時間：9:00～17:00(予約センター受付時間) 定休日：無休

東武トップツアーズ 滋賀支店

東武トップツアーズは、全都道府県に事業所を構え、地域の暮らしと豊かな社会に貢献することを目指しています。地域の元気は日本の元気。日本の元気は世界の元気。笑顔の飛び交う社会を作りたい。私たちは日本を元気にするために、地域のあふれる魅力を磨き、繋ぎます。旅行はそのための最大のツールですが、ゴールではありません。私たちが目指すのは、地域のチカラを最大限に引き出し、地域を日本を笑顔でいっぱいにする。旅行だけに留まらない、今の東武トップツアーズを知ってください。



会員特典 国内パッケージツアー(FEEL) 基本旅行代金の5%割引

住所：草津市若竹町7-10 KB21-2階
電話：050-9001-6304 FAX：077-565-0112
URL：https://www.tobutoptours.co.jp/
営業時間：9:30～17:30 定休日：土・日・祝

SIAメンバーズの募集について

お問合せ 》 TEL:077-526-0931 E-mail:info@s-i-a.or.jp

当協会会員の皆さまの相互交流の推進を目的に会員様のお店や事業の紹介をしている「SIAメンバーズ」では、お店の情報等の掲載にご協力いただける方を募集します。掲載の条件は、「当協会会員であること」「会員特典を実施していただけること」の2点です。詳しくは、当協会事務局までお問合せください。

SIA会員募集のご案内

当協会の活動に対する理解と幅広い参加をいただくために会員を募集しております。国際交流や多文化共生地域づくりに関心をお持ちの方のご入会をお待ちしております。

会員特典

- 当協会主催イベント参加費の割引
- SIAメンバーズ各店で利用割引、優待等
- 当協会情報誌のお届け
- 県内イベント案内のメルマガ配信
- 国際情報サロン図書等や国旗の貸出サービスあり

会費

- 学生会員 1口年額 1,000円
- 個人会員 1口年額 2,000円
- 団体会員 1口年額 10,000円

会員情報

[現在の会員数] 2025年6月末日現在
●個人会員/204人 ●団体会員/86団体
[新規入会] 2025年3月1日～6月30日
●個人/1人

SIAサイトはこちら



ホームページ Facebook

ご寄附の御礼

下記の法人様よりご寄附いただきました。ご厚志に感謝申し上げます。

寄附金は、国際交流や多文化共生の地域づくりの推進など、当協会の事業に活用させていただきます。

有限会社 三王都市開発

100,000円

(敬称略)